
愛すべき問題又は列車で逃げ出す僕。

一柳 紘哉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

愛すべき問題又は列車で逃げ出す僕。

【Nコード】

N1521A

【作者名】

一柳 紘哉

【あらすじ】

わかってほしいのは、僕は全てが嫌いになったわけじゃなくて、最初から嫌いだったって事。だから僕は、少しのお金でいける、誰も僕を知らない町に旅にでた。

今日、僕は友人の家から帰るのに、千五百六十円の切符を買った。
家に帰るのに必要なのは五百三十円。

時刻は二十二時。

Q、以上をふまえて、なぜ約三倍もする切符を買ったのか？

A、知らないところに行きたかったから。

簡単な理由。

一種の現実逃避。

そうさ、ただ単に逃げ出したくなったんだ。

僕を取り巻く責任という亜鉛色のプールを泳ぐことに疲れたんだ。
券売機から出てきた切符は、お金を表す数字が違うだけで全くいつもと同じ様に感じた。でも、手に持った瞬間にこれは

「負け犬の切符」

であると感じ、僕を安心させ、又興奮させる。

透明な薄い膜を破るように改札を通りぬけたら、ちょうど普通列車が止まっていた。

でも焦る必要も感じなかったし、僕は乗らなかった。

プラットホームには僕以外には一人もいなかった。

時刻表を見に行くと、次の列車まで十五分ほど時間があつたので、
所々塗装がはげ少し汚いベンチに座り、煙草に火をつけ先ほどまで
いた町を別に興味はないが見ていた。

看板。商店街。コンビニ。タクシー。住宅。バスロータリーの真ん
中に座っている黒い犬が僕に吠えている気がした。

とても小さく吠えるので、注意して聞こうと意識を集中させた。

「切符。みして下さい。」

確かにそう聞こえた。僕はポケットの中から切符を出して、犬の方
に向けた。

「表じゃなくて、裏です。」

裏をみして下さい。」

いわれたとつりに裏を見せた。

「はい。大丈夫ですねそれでは次の列車にお乗り下さい。」

吠え終わるとほぼ同時に列車が僕のホームに止まった。

終点の場所も載っていないその列車には、ほぼ満員の人が載っていた。

だから僕は興奮して列車に乗った。

Q 以上のことをふまえて答えなさい。この列車はどこに行くでしょう？

A 亜鉛色のプールが無くて、誰もが一度は望む場所で、でも絶望が待ってる。それともあれは希望なのか？

でも僕が望む場所。

簡単な理由。

すべての言葉に含まれる現実。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1521a/>

愛すべき問題又は列車で逃げ出す僕。

2011年2月1日05時42分発行